

5670

第三號

受審番	件名	大臣	決裁		主務司	大司課	大臣官房
領番	名				交番	提出	了結
内務省	關東州刑事民事處分令内務司志両省通報件(並内閣報告)	紅			明治 年 月 日	明治 年 月 日	明治 年 月 日
廳名	内務省	次官	主務局長	參事官	聯帶局長	聯帶局長	
		高級副官	主務課長				
		主務副官	主務課員				
		主計					
							審案筆記者

大臣ヲ内務司法兩大臣(内閣総理大臣)ニ通報(報告)

關東州民政署管轄区域内ニ在ル占領地人民ノ刑事及

民事ニ關スル處分法別冊ノ通規定候旨大山滿州軍統

司令官ヨリ通報有之候條其般及通報候也

内閣総理大臣ニハ末文通報ヲ報告ニ作ル

(陸軍省) 滿發第七〇二號 八月十日

一別有リシ總務科々此の如き方ハ一部ニ付セリ

原手ニはから、田中



追テ内地関係官衙ニ貴大臣ヨリ通報
相成度

刑事民事處分令

第一章 總則

第一條 本令ハ關東洲民政署管轄區域内ニ在ル占領地人民ノ刑事及民事ニ適用ス但臨時軍法會議及軍事法院ノ權限ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 本令ニ依ル處分ハ關東洲民政署民政長官ノ命スル司法委員之ヲ行フ

第三條 本令ニ規定スルモノノ外必要ナル規定ハ民政長官之ヲ定ム

第二章 刑事

第四條 安寧秩序ヲ紊シ又ハ生命、身體、自由、名譽、財産ニ害ヲ加フルノ所為ハ地方ノ法規慣例陸軍刑法、海

軍刑法及日本帝國刑法其ノ他ノ附屬法規ヲ参照シ
之ヲ處分ス

第五條 刑ヲ分テ死、懲役、沒收、罰金、笞、拘留及科料トス

犯罪ノ情狀ニ因リ死ニ沒收ヲ併科シ懲役ニ沒收又

ハ罰金ヲ併科スルコトヲ得

第六條 死ハ斬又ハ絞首トス

第七條 懲役ハ十一日以上トシ獄ニ拘禁シ定役ニ服

セシム但情狀ニ因リ服役セシメザルコトヲ得

第八條 沒收ハ資産ノ全部又ハ一部ヲ官沒ス

罰金ハ二圓以上トス

笞ハ百以下トシ臀ニ鞭ス

拘留ハ十日以下トシ拘置場ニ留置ス

科料ハ一圓九十五錢以下トス

第九條

罰金ハ處分言渡ノ日ヨリ十五日内ニ納完セ
シム若限内納完セサルトキハ強制處分ニ依リ之ヲ
懲收シ仍納完スルコト能ハサルトキハ懲役又ハ管
ニ換フ

罰金ヲ懲役ニ換フルトキハ五十銭ヲ一日ニ折算ス
其五十銭ニ滿サルモノト雖亦同ニ但二年ヲ超ユル
コトヲ得ス

罰金ヲ管ニ換フルトキハ一圓ヲ管五ニ折算ス其ノ
一圓ニ滿サルモノト雖亦同ニ

第十條

科料ハ處分言渡ノ日ヨリ五日内ニ納完セシ
ム若限内納完セサルトキハ強制處分ニ依リ之ヲ懲
收シ仍納完スルコト能ハサルトキハ拘留ニ換フ
科料ヲ拘留ニ換フルトキハ前條第二項ノ例ニ依ル

第十一條

懲役又ハ笞ニ處セラレタル者ハ第九條ナ

例ニ準之罰金ニ換フルコトヲ求ムルコトヲ得

第十二條

正犯、從犯、教唆犯タルト既遂犯、未遂犯タル

トヲ問ハス情状ニ因リ本刑ヲ科シ又ハ減刑シ若ハ

其ノ罪ヲ論セズ

第十三條

支署長、警視、警部ハ犯罪ヲ搜查シタルトキ

ハ犯人及證據書類ヲ司法委員ニ送致スルニ

第十四條

司法委員ハ事實審査ノ為證據人ヲ喚問シ鑑

定ヲ命ジ又ハ臨檢ヲ為シ家宅ヲ搜索シ物件ヲ押收

スルコトヲ得但官吏ヲ喚問セシトスルトキハ其ノ

所屬長官ノ許諾ヲ受ケルヲ要ス

第十五條

司法委員ハ職務執行ノ為警部、巡査ヲ指揮

スルコトヲ得

第十六條 司法委員各證據、取調ヲ終リタルトキハ

處分言渡書ヲ作成シ之ヲ言渡スヘシ

被告入關席ノ場合ハ其言渡書ヲ公示ス

第十七條 被告事件ヲ送致シタル支署長、警視、警部ハ

其ノ事件ノ審理處分言渡ニ立會シテ意見ヲ述スル

コトヲ得

第十八條 罪死ニ該當スルト認ムルトキハ民政長官

ノ認可ヲ經テ處分言渡ヲ為スヘシ

第十九條 刑ノ執行ハ司法委員之ヲ指揮ス

第二十條 民政長官ハ刑ノ言渡ニ錯誤アリタルコト

ヲ發見シタルトキハ司法委員ニ其ノ再審ヲ命スル

コトヲ得

第二十一條 死ノ處分言渡ヲ為シタルトキハ滿洲軍

總司令官ノ指揮ヲ受ケ其ノ執行ヲ爲スヘシ
 第二十二條 刑ノ執行中ニ在ル者悛改ノ情状顯著
 ルトキハ滿洲軍總司令官ハ其ノ刑ノ全部又ハ一部
 ヲ赦免ス

第三章 民事

第二十三條 民事處分ハ地方ノ法規慣習及日本帝國
 民法商法其ノ他ノ附屬法規ヲ參酌シテ之ヲ行フ

第二十四條 民事處分ヲ分テ裁判、勸解ノ二種トス

第二十五條 裁判ハ勸解ノ成立セサル場合ニ限リ之
 ヲ行フ

第二十六條 成立シタル勸解ハ裁判ト同一ノ効力ヲ
 有ス

第二十七條 司法委員ハ當事者ノ申請ニ因リ裁判及

成立ニシタル勸解ヲ執行スル為執行文ヲ附與スルニ
第二十八條 前條ノ執行ハ巡查ヲシテ之ヲ行ハシム

附則

本令ハ明治三十八年八月六日 旨之ヲ施行ス